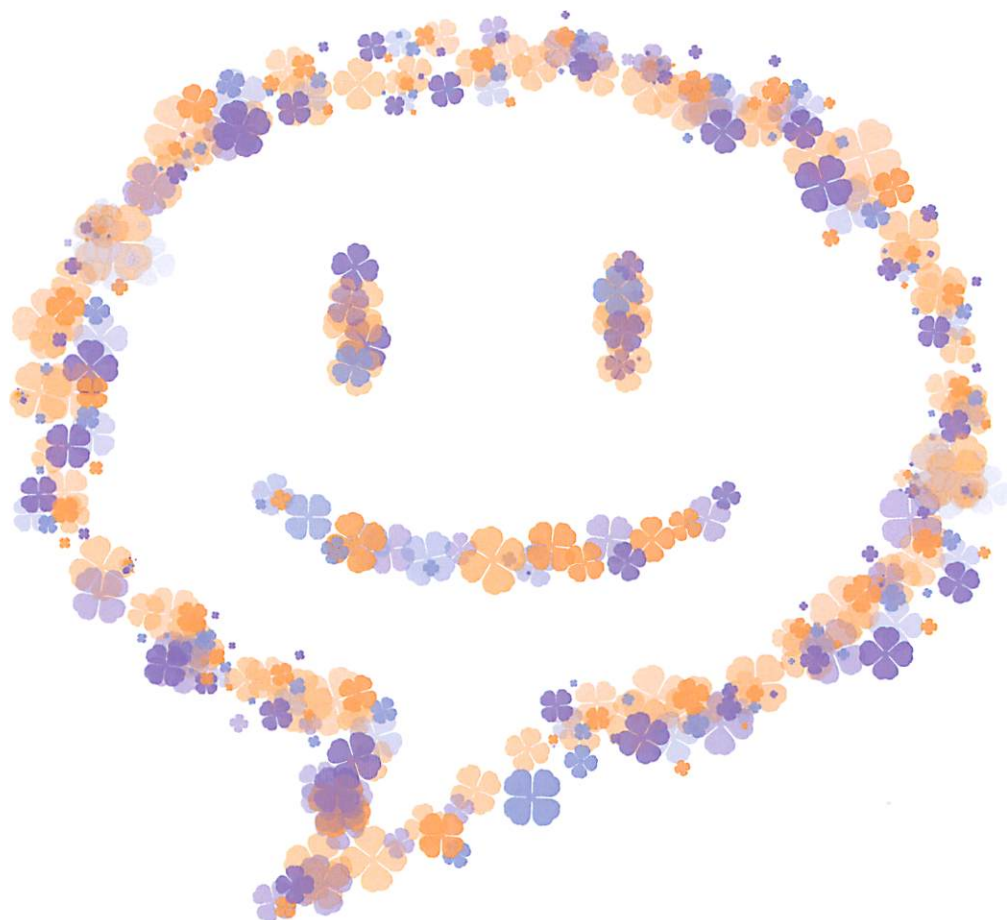


2022年度

広島県失語症者向け意思疎通支援者
養成事業・派遣事業

実施報告書



主催 広島県 広島市 福山市 呉市
主管 一般社団法人 広島県言語聴覚士会

目次

はじめに

目次

1.	あいさつ	1
2.	失語症者向け意思疎通支援者とは	2
3.	失語症者向け意思疎通支援者養成事業	
	・ 2022 年度	4
	・ 受講生のことば	10
	・ 支援 ST(支援言語聴覚士)のことば	11
	・ アンケート結果 2018 年～2022 年.....	12
4.	失語症者向け意思疎通支援者派遣事業	
	・ 目的・派遣事業内容.....	16
	・ 派遣事業の流れ.....	17
	・ 実施状況	18
	・ パイオニアのことば.....	21

おわりに

はじめに

2018年より失語症者向け意思疎通支援者養成研修事業、2019年度より失語症者向け意思疎通支援者派遣事業が始まり、この事業開始から5年が経過しました。その間、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により養成・派遣事業ともに事業運営に困難をきたしましたが、オンラインという新たなツールを見出し、今に至ります。さて、今年度も無事に報告書を作成することができましたのでお届けします。ご覧いただければ幸いです。

失語症は症状の複雑さと多様さにより一般市民の方の理解が十分とは言えません。言葉が伝わらなくて困るだろう、ということは容易に想像がつきます。しかし、言葉がうまく使えないということが、生活にどんな影響を及ぼすかということは、なかなか想像できないものです。通常行っている買い物や近所の人との雑談、パソコンや携帯電話でのメールの送受信、電話でのやり取り、上司の指示通りに仕事をこなすことなど、言葉を伴う多くの活動に不自由さがついてきます。

一方、一般市民の方から誕生した失語症者向け意思疎通支援者は、支援活動を通して失語症の人が持つ問題に気づき、活動の拡大や啓発活動をしたいという希望を持つようになっていきます。小さな変化ではありますが、一般市民の方への取り組みがこのような変化を生んだものと感じています。

まだまだ小さな活動ではありますが、事業の継続・拡大により県内各地に失語症の人への支援が広がることを願いながら、諦めずに頑張っていきたいと思えます。

今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

2023年3月

一般社団法人 広島県言語聴覚士会
失語症者向け意思疎通支援作業部会
代表 沖田啓子

1. あいさつ

令和4年度広島県失語症者向け意思疎通支援者養成研修修了式にあたり、一言御挨拶を申し上げます。

当講座の受講者の皆様におかれましては、本日修了式を迎えられました。本当にお疲れ様でした。

8月7日の開講から、長期に亘っての受講となり仕事など日頃の生活に加えての受講ということで、負担も大きかったと存じますが、皆様の情熱と頑張りに深く敬意の念を表します。

失語症の方は、話が難しいことで家庭外へ出ることをあきらめたり、緊急時や災害時の支援が受けにくいなど、社会の中で孤立しがちです。

失語症の方の自立と社会参加を図るための意思疎通支援は、言語によるコミュニケーションに制限がある中で、一人ひとり症状の違う「失語症」を正しく理解するには時間がかかり、また、難しいことと思います。しかし、意図や感情が正しく伝わった時にはお互いに大きな喜びが得られると思います。失語症の方と支援者が通じ合えたら、その失語症の方と他の人とも通じ合え、人間関係が広がるよう失語症のある方を支援することで更なる喜びが得られると思います。

皆様におかれましては、研修で培ったスキルを実践いただき、失語症の方々が他者との関わりを通じ、人生を豊かに生きるためのお手伝いをしていただければ幸いです。

また、この講座の運営に当たり多大な御協力をいただきました、広島県言語聴覚士会の皆様、大変お忙しい中、研修の円滑な実施のために御尽力いただき、ありがとうございました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

終わりに、受講者の皆様の御活躍と広島県言語聴覚士会の今後の益々の御発展を祈念いたしまして、簡単ではございますが、修了の挨拶とさせていただきます。

令和5年1月8日
広島県 健康福祉局 障害者支援課
自立支援担当監 加川 伸

2. 失語症者向け意思疎通支援とは

失語症者向け意思疎通支援者は、失語症により意思疎通が困難な方が、積極的に社会参加できるようにコミュニケーションを支援します。聴覚障害のある人に手話があるように、失語症の方には意思疎通支援者が必要です。その存在はことばのバリアフリーを実現します。

失語症は、脳卒中や脳外傷などによっておこる後天的な言語機能の障害です。大脳の言語機能を司る言語の領域が障害されると、話を聞いても理解できなかったり、言おうとしても言葉が出て来なかったりします。言葉が難しくなった状態での社会生活は、交友関係をはじめ仕事の継続や余暇を楽しむ活動等、さまざまな場面で困難が生じます。よって、人との交流を避け、閉じこもりがちになってしまいます。

広島県失語症者向け意思疎通支援者養成研修では、失語症者の福祉に理解と熱意を有し、意思疎通支援に携わることができる18歳以上の方を対象とし、地域の広報誌に掲載したりチラシを配布するなどして、一般から広く参加を呼び掛けています。研修では、講義で失語症を抱えた生活の困難さや必要な支援について学び、言語聴覚士や失語症者との実技練習を行う中で支援に必要なスキルを身につけていきます。毎年、年齢も住まいも職業も様々な方が参加され、意思疎通支援者になられます。

失語症を抱えたまま病院から退院し、日常生活に戻られる失語症の当事者とそのご家族にとって、地域に意思疎通支援者がいることは力になります。支援者は失語症の方と1対1で会話ができ、さらには外出に同行し外出先でのコミュニケーションを支援します。その支援は、失語症の方がコミュニケーションの難しさから諦めていた社会参加へまた踏み出そうと思える大きな一歩になります。広島県全域に支援者がいること、そして各地で支援者が活躍していくことが大いに期待されています。



広島県言語聴覚士会では「失語症者向け意思疎通支援者を知っていますか？」
「失語症について知りたい/失語症の人を支援する方法について知りたい」の
パンフレットを作成し、HPに掲載しています。

❑ 失語症者向け意思疎通支援者を知っていますか？

失語症者向け意思疎通支援者を利用するためには

登録が必要です

- 登録を希望される失語症の方は広島県言語聴覚士会へご連絡ください
- 利用登録手続き（広島県）後、失語症の方に利用開始の連絡が入ります

登録後の利用には

- 利用希望内容、日時を広島県言語聴覚士会へご連絡ください
- 登録している意思疎通支援者と失語症の方との調整を行います

一般社団法人広島県言語聴覚士会
Tel 082-921-3230
Fax 082-921-3237
E-mail hiroshimastkai@yahoo.co.jp
HP <http://www.hiroshimastkai.jp/>

失語症のあなたと話したい

失語症者向け意思疎通支援者を知っていますか？



失語症のAPHASIA DAY

広島県失語症者向け意思疎通支援者派遣事業

失語症って何ですか？

失語症は脳卒中などによって起こることの多い障害です

話すこと、聞くこと、書くこと、読むことが難しくなります

失語症になると会話が難しくなります

外へ出ることをあきらめたり、社会の中で孤立しがちになります

緊急時や災害時の支援が受けにくくなります

失語症の人を支援する意思疎通支援者とは何ですか？

広島県が主催する40時間の研修を受講して、取得する資格です

失語症の方と会話を行うための技術を身につけています

失語症の方の気持ちを理解し、失語症の方と社会を結ぶためのサポートをします

意思疎通支援者がサポートします

- 会議の支援**
ご友人との会議や、失語症の友の会、サロンでの会議のサポートをいたします
- 交通機関の利用**
路線バス、特急券、アタワンズなどを理解するためのサポートをいたします
- 会議への参加**
会議の内容理解・発言をいたします
- 公共施設の利用**
銀行、役所、郵便局等の手続きのサポートをいたします

- 買い物や娯楽施設の利用**
趣味や余暇活動を楽しむためのサポートをいたします
- その他、実施団体が適当と認めた支援**

利用費用は原則無料

失語症の人に費用負担が生じる例
映画、コンサート、食事などに同行した場合は意思疎通支援者分の料金の差払い

意思疎通支援者の移動の交通費が2000円を超える場合、超過分の費用

❑ 失語症について知りたい/失語症の人を支援する方法について知りたい

『失語症』
について知りたい

失語症を支援する方法について知りたい方は裏面へ

広島県失語症者向け意思疎通支援事業

（主催）広島県 広島市 福山市 呉市
（主管）一般社団法人 広島県言語聴覚士会

失語症の人を『支援する方法』
について知りたい

失語症について知りたい方は裏面へ

一般社団法人 広島県言語聴覚士会

「問い合わせ先」失語症者向け意思疎通支援者派遣事業部

【電話番号】082-921-3230

【問い合わせ時間】月・水・金 9時～14時

失語症について知りたい方は裏面へ

3. 失語症者向け意思疎通支援者養成事業

2022年

カリキュラム



- | | | |
|------|----------|-------------------------------|
| 第1回 | 講義 | 開講式／失語症と意思疎通支援者の基礎知識 |
| 第2回 | 講義
実技 | コミュニケーション支援技法／
コミュニケーション実習 |
| 第3回 | 講義
実技 | 失語症のある人について／
コミュニケーション支援技法 |
| 第4回 | 講義
実技 | コミュニケーション支援実習 |
| 第5回 | 実技 | 身体介助方法／身体介助実習 |
| 第6回 | 講義
実技 | 外出同行支援／外出同行支援実習 |
| 第7回 | 実技 | 外出同行支援実習 |
| 第8回 | 実技 | コミュニケーション支援実習 |
| 第9回 | 実技 | コミュニケーション支援実習／認定テスト |
| 第10回 | | 修了式 他 |

第1回

2022年8月7日(日) <オンライン>

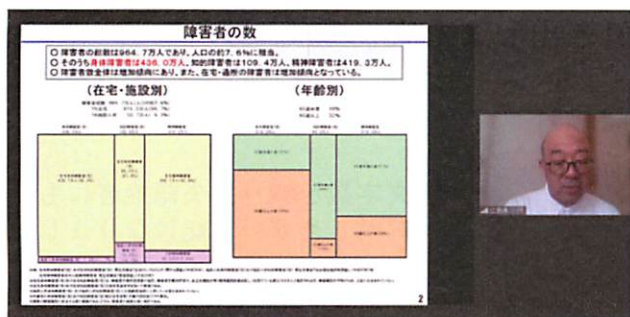
開講式／

失語症と意思疎通支援者の基礎知識

2022年度養成研修がスタートし、受講生24名(うち公開講座のみ参加7名)の方がオンラインで受講されました。

広島県言語聴覚士会 五郎水会長、失語症者向け意思疎通支援者グループ「パイオニア」原田代表の挨拶がありました。

受講生は講義を聴講した後、自己紹介とともに研修参加の動機を話しました。



第2回

2022年8月21日(日) <オンライン>

コミュニケーション支援技法／

コミュニケーション実習

講義で、理解面を補う、表出面を補う、話の内容を確認する技術について学びました。さらに、悪い例・良い例をVTRで確認し、ロールプレイを行い、理解を深めました。

受講生2名、模擬失語症者(言語聴覚士)1名のグループに分かれ、失語症の人の集まり(Green)について伝達し、参加の意思を確認する課題を行いました。初めての実習がオンラインということで受講生の困惑する様子が多く見られました。「表情の確認が難しい」「Yes-Noで答えられる質問を思いつかない」などの意見が聞かれました。



第3回

2022年9月4日(日) <オンライン>

失語症のある人について/
コミュニケーション支援技法

我が国の失語症のある方の人数

(山鳥重著「言葉と脳と心」講談社現代新書2011年より)

カナダの地域研究(2004~2005)によると、脳血管障害患者で退院時に失語症を残していた者は退院患者の約35%	この割合を2002年の日本の脳血管障害患者総数に当てはめると約48万人	失語症の原因疾患は脳血管障害90.7%、それ以外9.3%(失語症全国実態調査2002)であるため、それ以外の患者数を48万人に加える
--	-------------------------------------	--

2002年頃には、日本には52万9千人~~人~~ぐらいの失語症の患者さんがいたのではないかと推察されます。

『失語症のある人の日常生活とニーズ』についての講義で、失語症に関わる公的な制度を始め、失語症を発症した方の入院生活から在宅生活の状況を学びました。

実習で受講生は文字提示や選択肢の提示など、これまで習得した技術を使い、模擬失語症者の言葉を引き出しました。

講義受講前の課題

○市民病院への臨時バス
 出発点：菊町農協前バス停
 時間 ①平日 8時 ②平日 9時
 予約方法：電話 前日 17時
 0123-45-6789
 ×9月3日から利用可

講義受講後の課題

○臨時バス (9/3~11日×)
 ① 菊町農協前バス停
 ② 市民病院
 時間：① 8時 ② 9時
 予約：電話 0123-45-6789
 前日 17時 ×切

※ 文字数が減り、失語症者にも理解しやすい表記になりました。

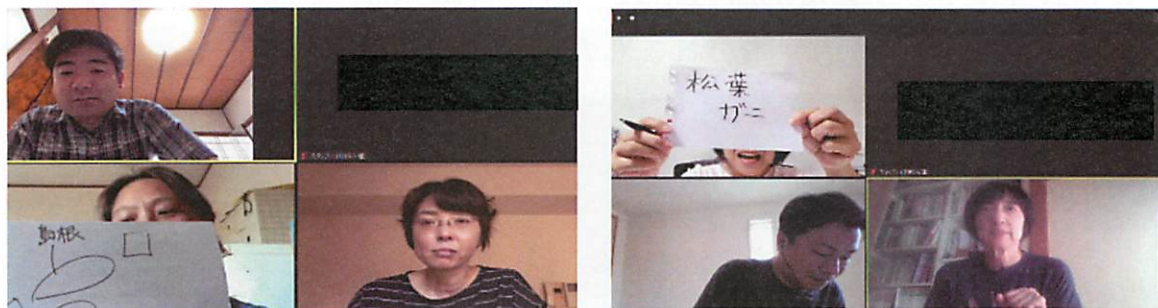
第4回

2022年9月25日(日) <オンライン>

コミュニケーション支援実習

オンラインでのコミュニケーション支援実習であっても、練習を重ねていくことにより、学習した内容の理解が深まっていく様子がありました。

実習後の振り返りでは、課題で失語症役になった時に、「思っているも伝わらないということがつらいとわかった」、「意思疎通支援者としてどのような支援を行っていくかを考えることになった」という感想がありました。



第5回

2022年10月2日(日)

身体介助方法／身体介助実習



理学療法士と作業療法士による講義と実習がありました。
高齢者疑似体験セットと下肢装具を装着して片麻痺状態になり、杖歩行、階段昇降、段差昇降を体験しました。

膝・足首運動が制限された状態での動きに多くの受講生が困惑し、また介助側の受講生は麻痺の方をどう介助するのが適切か、介助位置、歩行スピードなど、試行錯誤で実習が進みました。

第6回

2022年10月23日(日)

外出同行支援／外出同行支援実習

「外出同行」の講義の後、会場近くの店を利用して実習を行いました。
実習生は、買物・食事場所までの移動ルートの下見を行った後、模擬失語症者とともに出発です。右片麻痺のある模擬失語症者の歩行に配慮し、ゆっくり歩くこと、休憩をとること、それと同時に道路の段差、横断歩道の青信号の時間、自動車・バイク・自転車の往来にも注意して、安全第一の外出を心がけました。



第7回

2022年10月30日(日)

外出同行支援実習



若い失語の人の集まり「Green」の皆さんと実習をしました。グループごとに福祉センター周囲を散策し「もみじ」、「プラタナス」「イチョウ」を撮影しました。受講生は、配布された地図に、口頭説明されたことを書き加え、一緒に注意する点を共有しました。

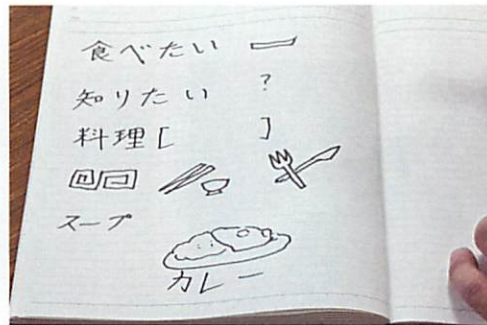
受講生も、道路の状況、休憩、トイレ、水分補給の配慮など、前回の講義や実習で学んだ点に配慮していました。

第8回

2022年11月20日(日)

コミュニケーション支援実習

備後地域の失語症の人の集まり「備後の会」の皆さんと実習をしました。会話、ゲームなどで交流し、受講生も、前回以上に文字や絵を使用しながら、会話を進めていました。また、会の皆さんが自己紹介される際、失語症になった気持ちや悩みをお話しされたことで、受講生も意思疎通支援者としての重要性、必要性を改めて感じる場となりました。



第9回

2022年12月4日(日)

コミュニケーション支援実習／認定テスト



「備後の会」の失語症の人の協力のもと、1対1での会話、その後、失語症の人同士の会話支援などを行いました。

失語症の人から学ぼうとする受講生の前のめりの姿勢がありました。

受講生は難しさにも直面しましたが、失語症の人や支援者に助けられて、会話を行うことができました。

第10回

2023年1月8日(日)

実技テストの振り返り／修了式

今年度は、16名が修了しました。

広島県健康福祉局障害者支援課 地域生活・発達障害グループ 越智誠輝主査より修了証書をいただきました。



□ 受講生のことば

森川 美香 2022 年度受講

私は、看護師として回復期リハビリ病棟に勤務して4年目を迎えました。日常生活支援や退院支援を行いながら、今回この研修を知り、もっと患者の理解を深めたいと思い受講することにしました。

看護師でありながら、「失語症」を正しく理解できていないことで、これまで患者の気持ちに寄り添えていなかったことに気づかされました。曖昧な返答をしていたり、会話を諦めさせたりしていたのかもしれませんが。研修で書き方を学んでからは実際の現場でも書くことが増えて、理解できることも増え、会話が楽しくなりました。

オンラインでの研修はうまく表現しにくく、書いている時の間など、オンラインならではのもどかしさがありました。会場では、直接対面する恥ずかしさがありながらも、楽しく取り組むことができました。また、交流しながら、みんながどんな気持ちで受講しているか知ることができました。

「失語症の会」に参加している方たちとの研修では、「しゃべりたい」「社会参加したい」という思いが伝わってきました。よく退院していく患者に、「これからがスタートよ」と見送っています。本当に退院してから社会の支えが必要であることを実感することができました。

研修後もできる限り「失語症の会」に参加していきたいと思っています。そして、病院という現場にいたので、院内でも意思疎通支援者として活動できる場を築き上げていこうと考えています。そのかわりの中で「備後の会」の参加者が増えるよう貢献できればと思います。

□ 支援 ST（支援言語聴覚士）のことば

崎濱 光 寺岡記念病院 言語聴覚士

支援 ST は、失語症者向け意思疎通支援者養成研修の実習サポートや失語症の人の集まりの活動を支えてくれている広島言語聴覚士会に所属する言語聴覚士です。

今年度、初めて支援 ST として参加いたしました。

前半はコロナ禍でのオンライン開催となり、カメラを意識しながら文字の大きさや絵の提示の工夫、相手の表情や相槌を見ながら会話を進行していくなど、私自身も「落ち着いて楽しく会話ができる様にするためにはどのようにすれば良いか」と考えさせられることが多くありました。

後半は外出同行支援実習などの対面形式の実技に切り替わりました。オンラインとは異なり、実際の対面では、「緊張感も伝わり、上手く会話を繋げることが難しかった」との声も聞かれました。受講生の皆さまは、反省点や支援 ST の助言、そしてグループディスカッションを踏まえ、回を重ねるたびに会話スキルが向上されていました。

どの受講生の皆様も、「失語症の方に会話を楽しんで頂き、支援をしたい」という熱い気持ちを持っておられ、講義終了後の受講生同士のやり取りが印象的でした。今回の養成研修を通して、失語症の方が地域で過ごしやすいう、心強くて、頼もしい支援者が多く増えていくことを心から願っております。



アンケート結果 2018年～2022年

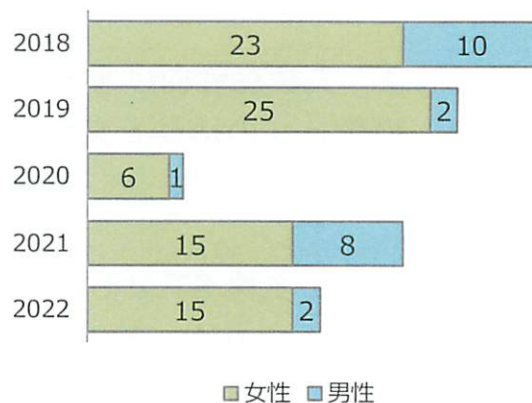
【開始時】 ※ グラフは各年度の回答数をもとにした割合です。



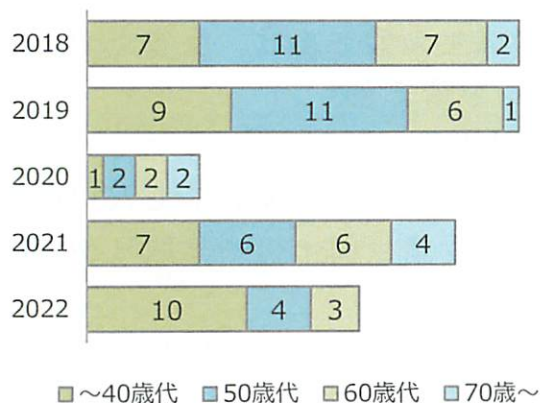
※ 2020年度は一部データがありません。

	回答数	／	受講生数
2018年度	33人	／	33人
2019年度	27人	／	30人
2020年度	7人	／	11人
2021年度	23人	／	23人
2022年度	17人	／	17人

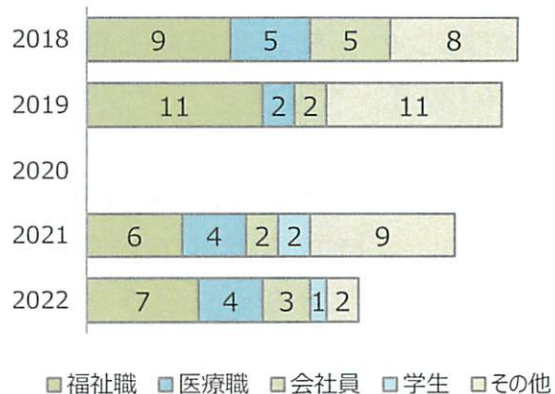
1. 性別



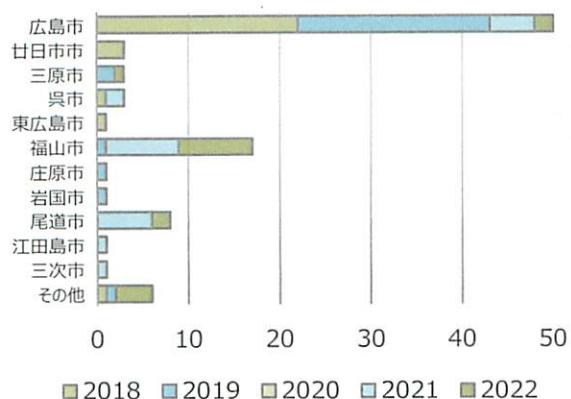
2. 年齢



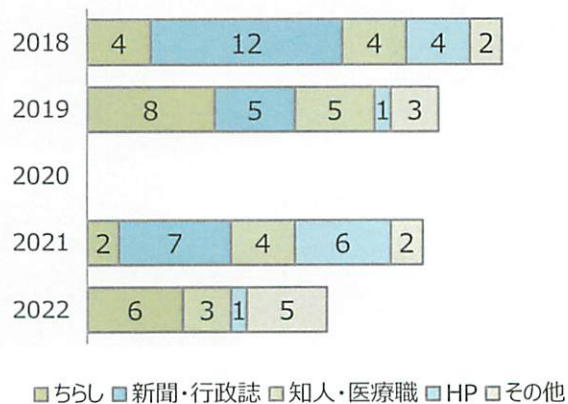
3. 職業



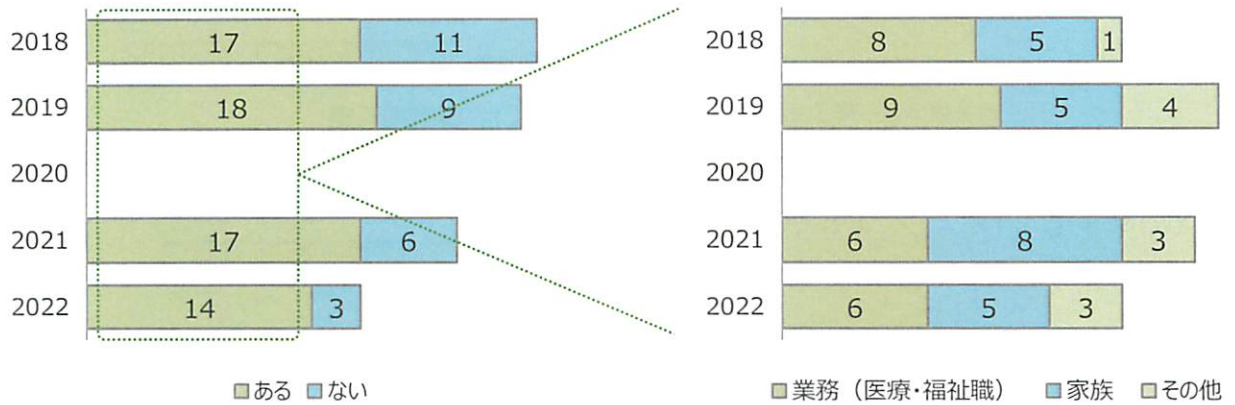
4. 居住地



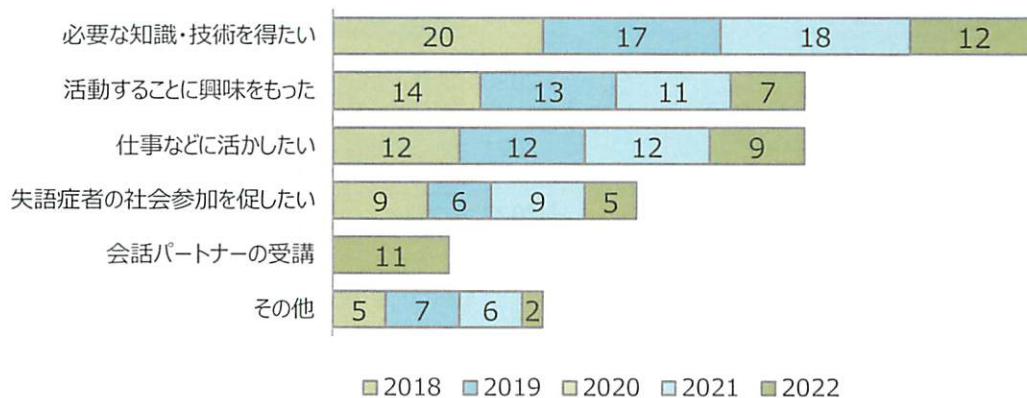
5. 養成研修の情報入手方法



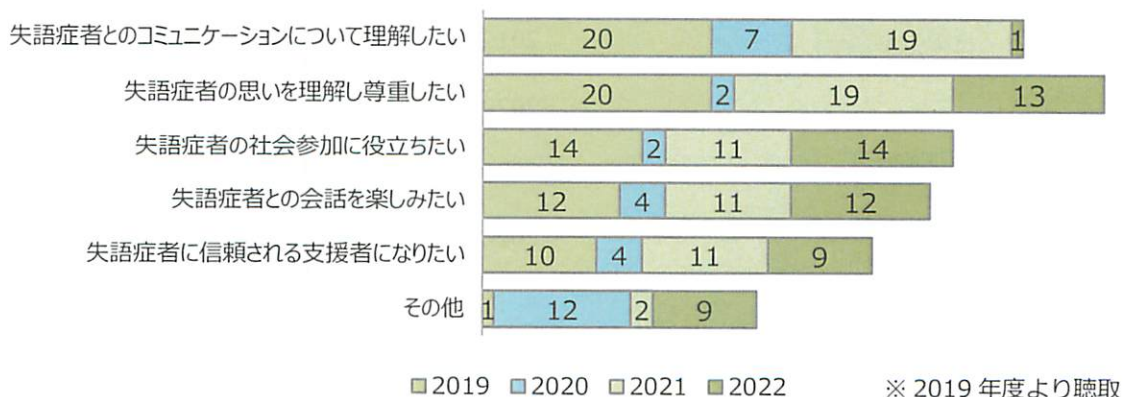
6. 失語症者と接した経験 → 「ある」どこで接したことがありますか？



7. 受講の動機



8. どのような意思疎通支援者になり活動したいと思いますか？



【 修了時 】 ※ グラフは各年度の回答数をもとにした割合です。

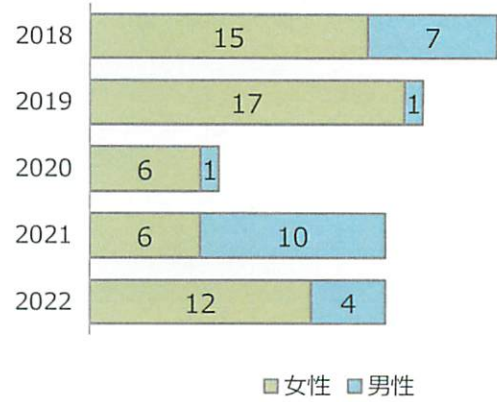


※ 未修了者を含む

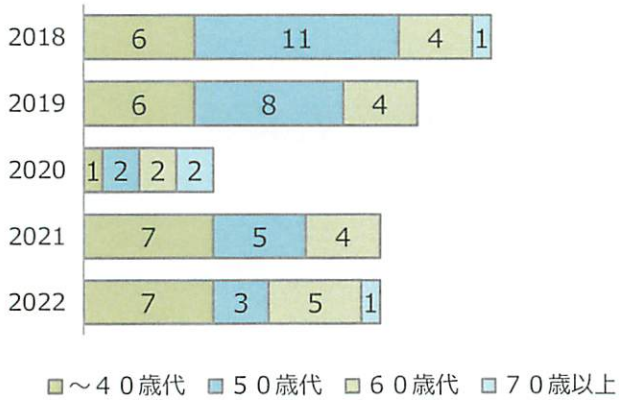
回答数 / 修了生数

2018年度	22人 / 20人
2019年度	18人 / 19人
2020年度	7人 / 5人
2021年度	16人 / 17人
2022年度	16人 / 16人

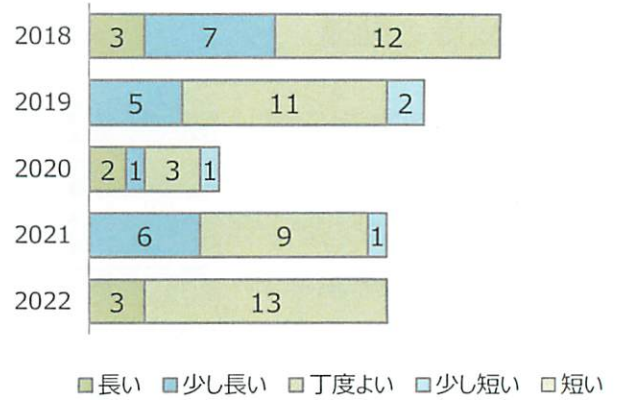
1. 性別



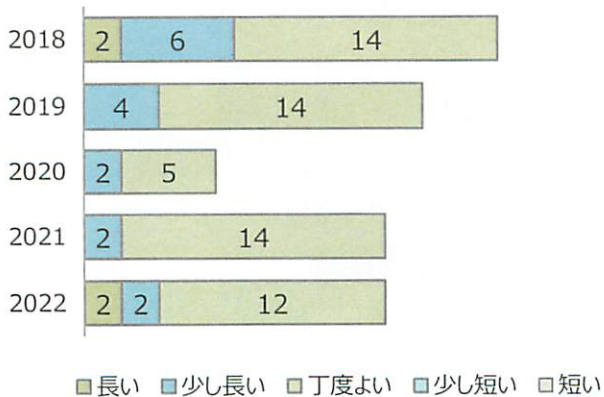
2. 年齢



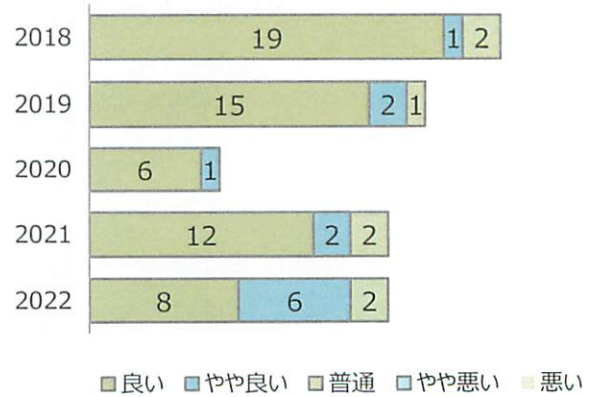
3. 研修全体の期間



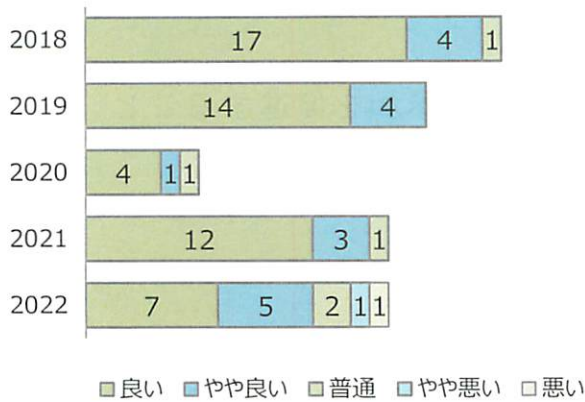
4. 講義時間



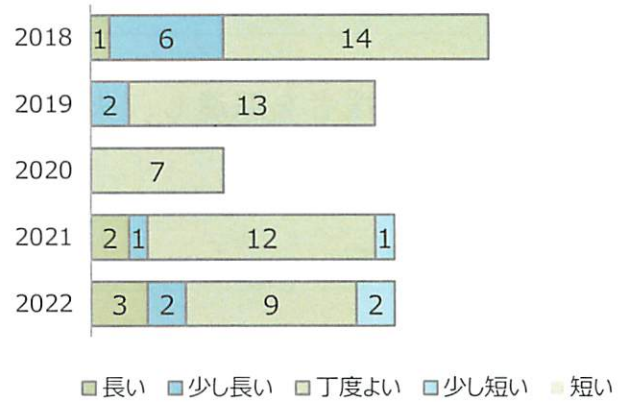
5. 講義内容



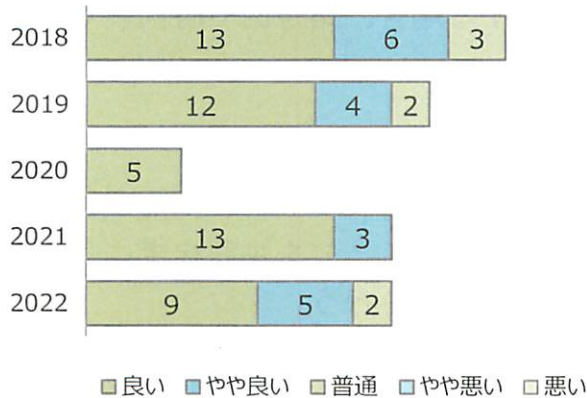
6. 受講生同士で行った実習内容



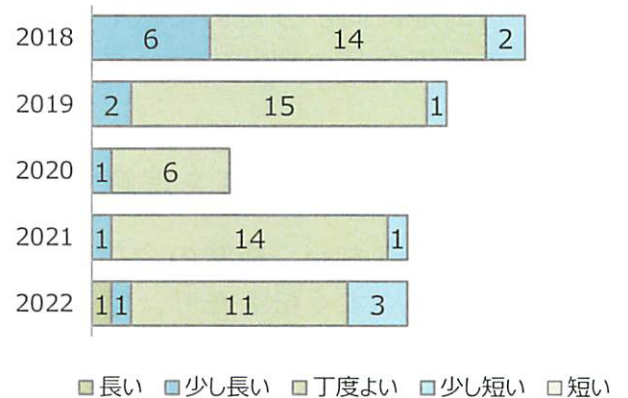
7. 受講生同士で行った受講時間



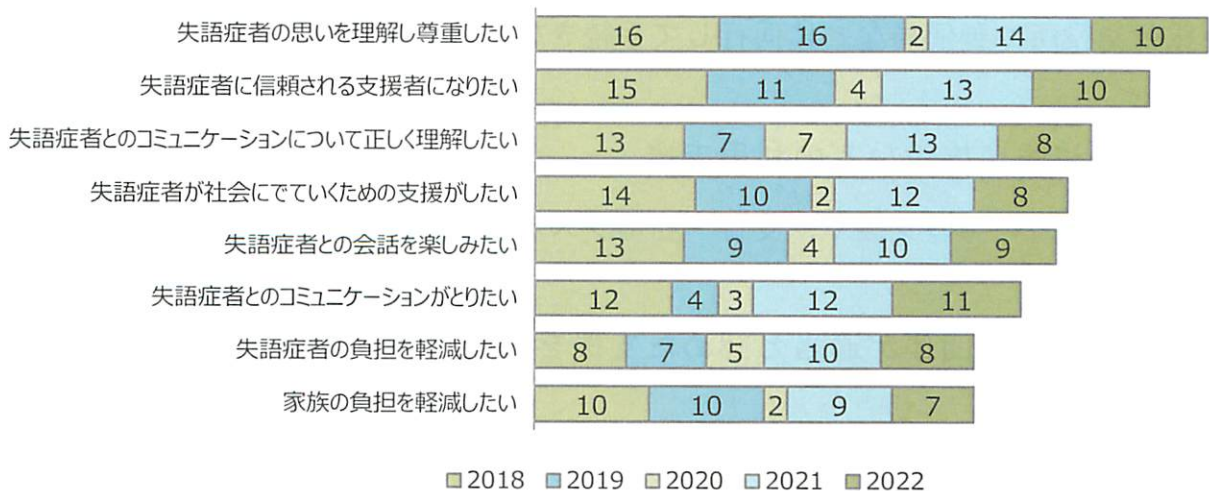
8. 失語症者で行った実習内容



9. 失語症者で行った実習時間



10. どのような意思疎通支援者になり活動したいと思いますか？



4. 失語症者向け意思疎通支援者派遣事業

目的

意思疎通支援者を派遣し、失語症者の自立と社会参加を促進すること

派遣事業内容

1. 外出支援

外出に同行して、他の人とのコミュニケーションの支援を行う。

2. 交通機関の利用支援

目的地に向かうために駅やバス停などを利用する場合、路線図や時刻表や表示板などの理解についての支援を行う。

3. 会や会議での内容を理解するための支援

会議（町内会、趣味の会など）などで、話されていることを失語症者にわかりやすく伝えたり、意見があるときはその支援を行う。

4. 失語症者同士のコミュニケーションの支援

失語症友の会やサロンなどに同行して、コミュニケーションの支援を行う。

5. 公共施設の利用支援

銀行や役所や郵便局などに同行して手続きなどの支援を行う。

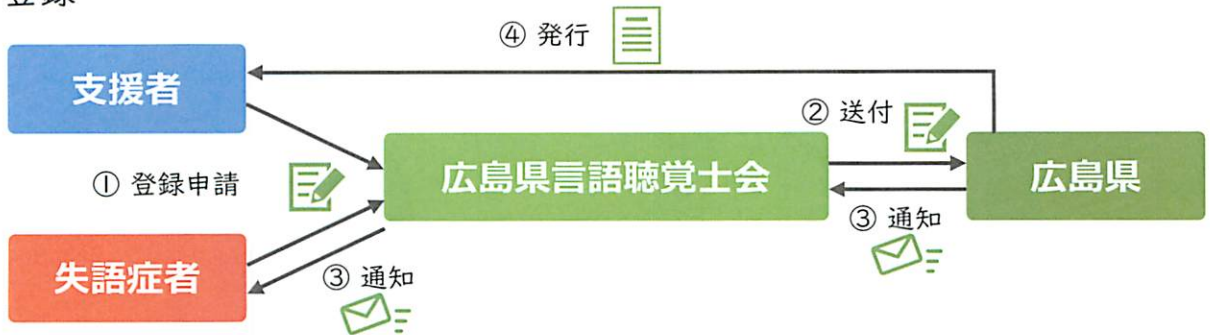
6. 買い物や娯楽施設などの利用支援

買い物についての支援や、受付・利用システムなどの支援を行う。

7. その他、実施団体が適当と認めた支援を行う

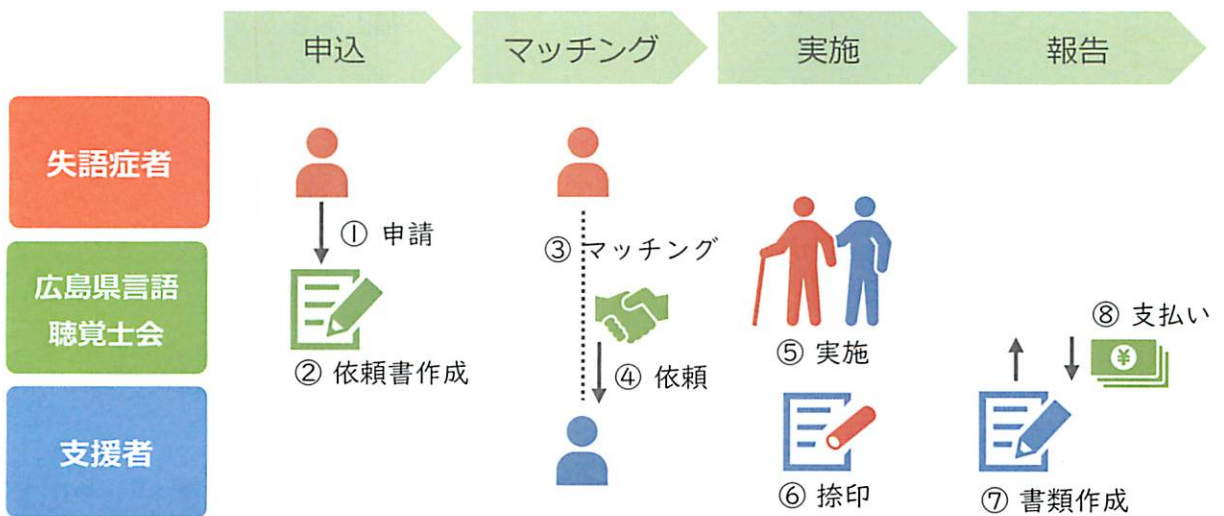
派遣事業の流れ

□ 登録



- ① 広島県言語聴覚士会に支援者登録（支援者）・利用登録（失語症者）の申請
- ② 広島県に申請書を送付
- ③ 登録完了の通知
- ④ 支援者証の発行

□ 利用

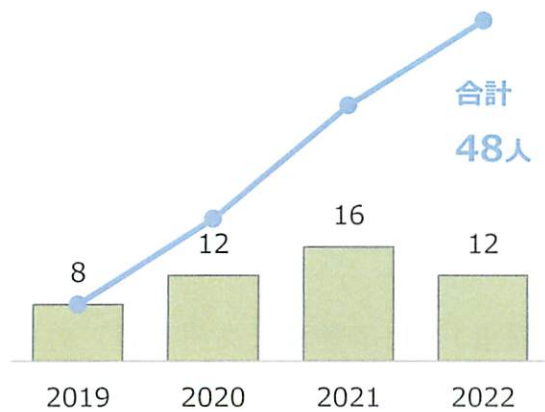


- ① 利用希望の申請
- ② 派遣依頼書を作成
- ③ 失語症者と支援者のマッチング
- ④ 支援者に派遣依頼
- ⑤ 支援を実施
- ⑥ 活動報告書に捺印または署名
- ⑦ 活動報告書・活動記録・交通費精算書の作成・送付
- ⑧ 謝礼金及び経費の支払い

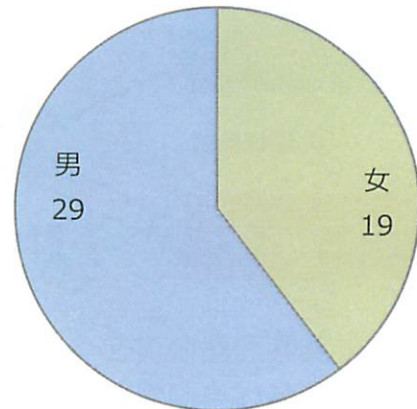
□ 実施状況

失語症の人 (48人)

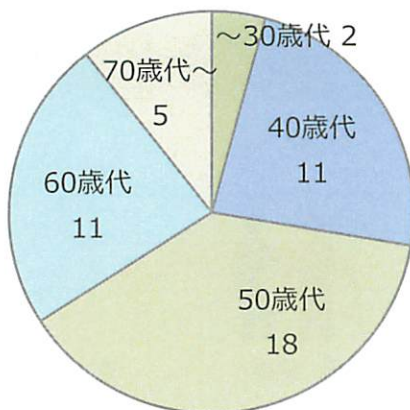
1. 登録者数



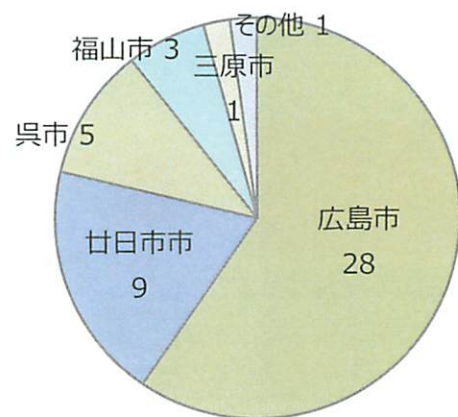
2. 性別



3. 年齢 (平均年齢 53.9 歳)



4. 居住地

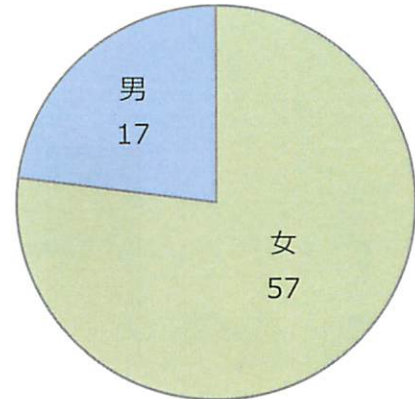


失語症者向け意思疎通支援者 (74人)

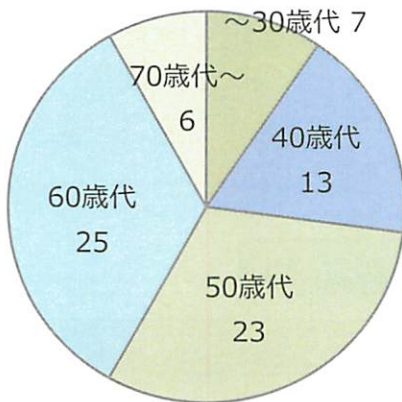
1. 登録者数



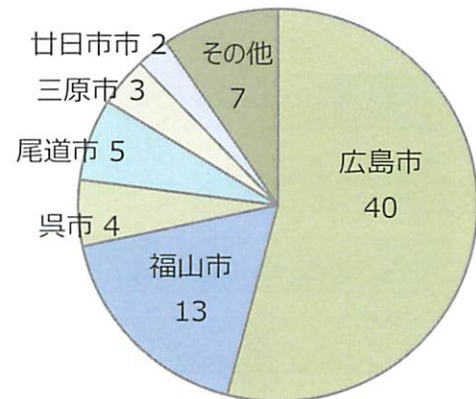
2. 性別



3. 年齢 (平均年齢 54.7 歳)

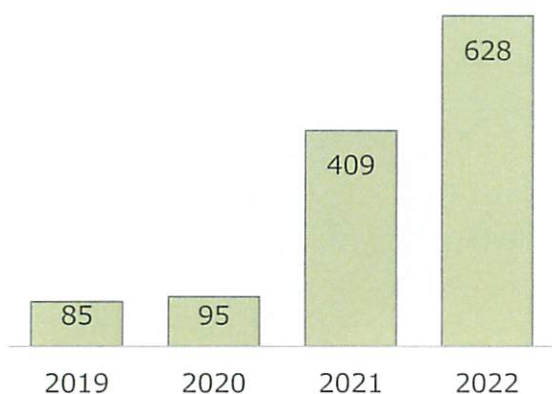


4. 居住地

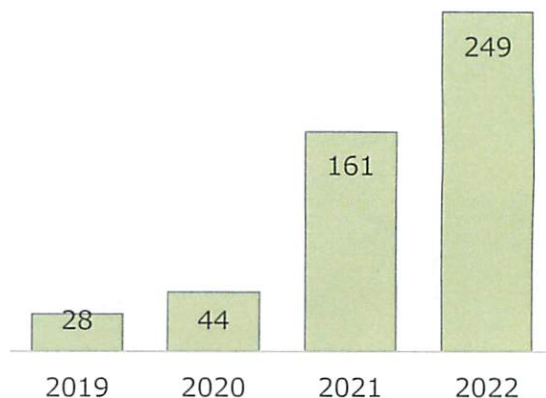


派遣時間・派遣件数

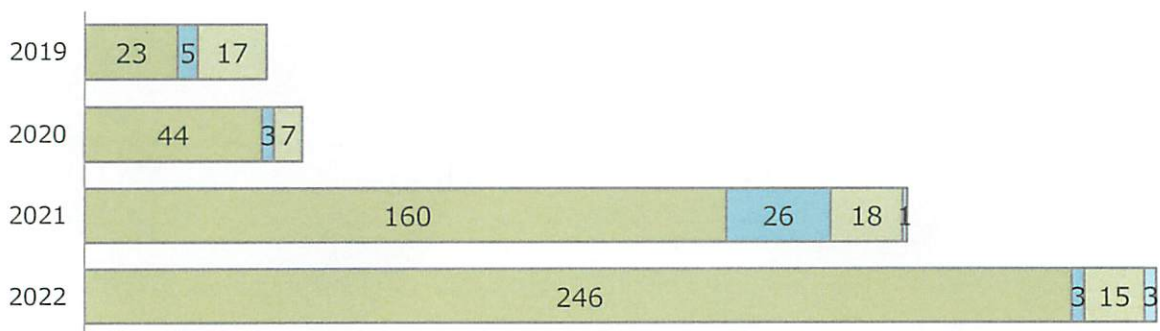
1. 派遣時間



2. 派遣件数



3. 派遣内訳



■ 失語症者同士の会話支援 ■ 買い物・娯楽施設利用支援 ■ 交通機関の利用支援 ■ 健診の利用支援



□ パイオニアのことば

田門 了子 パイオニア

パイオニアは登録した失語症者向け意思疎通支援者の活動グループです。

私は失語症者向け意志疎通支援者グループ「パイオニア」の一員として活動をしています。“Green”“備後の会”が主な活動の場です。失語症の方の社会参加や家族以外の第三者との活動がもっと活発になればと
いつも考えながら支援をしています。

私が支援する上で大事に考えているのは、何らかの疾患により言語障害・身体麻痺が起き、

世界が一変されたであろう苦悩や不安、その障害を受け止めることが出来ているのだろうか。

集まりに来られた方が自分の思いが話せただろうか、同じ障害を持った方と会話が弾んだらうか。「参加して良かった、次も来るよ。」と笑いながら帰って下さったらうか。その為に私たちの支援技能をもっと高めなくてはいけないと思います。今回の支援方法で

良かったのかいつも気になるところですが、幸いにも会にはいつも言語聴覚士の方々がおられ、

最後にアドバイスを頂けることができています。まだまだ未熟ですがたくさん
の経験を重ね

「パイオニアさん達に任せると安心よ。」と言っていたのが目標です。

これからも「パイオニア」メンバー全員で技能向上を図り、失語症の方とどんな活動ができるのか、支援者に何を求められているのか一緒に考えていきたい
と思います。



編集後記

失語症者向け意思疎通支援事業の報告書をお届けいたします。昨年度に続きコロナ禍での開催となり、改めて「繋がり」の大切さ・可能性を実感しております。本事業も5年目を終え、今年より福山にて失語症者の集い「備後の会」を立ち上げました。人と人の「繋がり」はもちろん、これまでそしてこれからの活動の「繋がり」により、報告書にあるように派遣事業の輪が徐々に拡充していることが理解できます。今後も多くの「繋がり」を意識した活動ができるよう努めて参りたいと思います。報告書作成にあたり、ご協力頂きました皆様にこの場をお借りし感謝申し上げます。

スタッフ

□ 失語症者向け意思疎通支援者作業部会

板倉香 市本将也 沖田啓子 小山善仁 田門了子 野間陸 原田健二
松原かほり 三上裕子 水戸裕香 蓑田直子 山下真樹 山田亜希子
山田那々恵 吉川浩平

□ 協力作業療法士

川原薫 日山絵里

□ 協力理学療法士

沖陽平 北井真太郎 三上友樹

□ 協力言語聴覚士

浅海早紀 石部貴之 井林由美 今橋郁美 上岡昇平 梅原利恵 瓜兼由紀子
大迫誉 大瀧浩之 木村徹 木元美也子 後藤優佳 齊藤美佳 崎濱光
芝本有伺 島谷結布子 杉村暁生 世良由美子 瀧野剛 田積明佳
田邊弥生 津田哲也 中岡奈美 中村文 萩原史佳 平山孝子 坊岡峰子
細川淳嗣 三縞明希子 光貞祐季 向井真美 村上光裕 安田美智子
山木千晶 矢守麻奈 横山千晶

2022 広島県失語症者向け意思疎通支援者
養成事業・派遣事業 実施報告書

2023 年 3 月発行

発行者 一般社団法人 広島県言語聴覚士会
〒731-5135 広島市佐伯区海老園一丁目 5-40

印刷所 青木印刷株式会社
〒737-2518 呉市安浦町内海北 2-1-6
TEL 0823-84-2104

